

様式 1

令和 4 年度学長戦略経費（研究プロジェクト）実績報告書（研究実績）

1 研究課題名

特別支援教育コーディネーターの専門性向上に関する実践的検討

2 研究代表者

旭川校・教授・片桐正敏

3 研究分担者・研究協力者

旭川校・教授・萩原 拓 研究協力者  
旭川校・准教授・蔦森 英史 研究協力者  
函館校・教授・細谷 一博 研究分担者  
函館校・教授・五十嵐 靖夫 研究協力者  
函館校・教授・北村 博幸 研究協力者  
釧路校・准教授・戸田 竜也 研究分担者  
釧路校・教授・小野川 文子 研究協力者  
釧路校・教授・小淵 隆司 研究協力者  
釧路校・准教授・田中 雅子 研究協力者

4 令和 4 年度研究計画の達成度

- a 計画とおり達成した  
 b 概ね達成した  
 c あまり達成できなかった  
 d 全く達成できなかった

【c 又は d を選択した場合の理由や問題点】

5 学術的成果

【論文投稿】

・蔦森英史、学習障害の推論機能にかかわる基礎的研究、精神科、120-125、

2022年41巻1号、査読無し。

- ・宮野希・細谷一博(2022)知的障害児を対象とした課題遂行における自己選択・自己決定の様相. 北海道特別支援教育研究, 16(1), 1-11.
- ・越智美雨・細谷一博(2022)小学校用教科書の視覚障害の扱い方からみた視覚障害理解教育の課題と展望. 北海道特別支援教育研究, 16(1), 23-32.
- ・中村龍平・橋本陽介・細谷一博(2023)肢体不自由特別支援学校の教員からみた児童生徒の余暇の実態と余暇指導の関連. 北海道教育大学紀要(基礎研究編), 73(1・2), 33-45.
- ・小島洋平・小松一保・細谷一博(2023)重度知的障害児を対象としたフォーマルなアセスメントの在り方に関する検討. 北海道教育大学紀要(教育臨床研究編), 73(1・2), 119-129.
- ・越智美雨・小松一保・細谷一博(2023)小学校を対象とした視覚障害理解教育の実施状況に関する調査. 北海道教育大学紀要(教育臨床研究編), 73(1・2), 85-93.
- ・西村祐紀・金木彩子・長谷川ひかる・能登祐聡・辻洋子・小島洋平・中村耕太郎・井平緑・細谷一博(2023)知的障害特別支援学校の小学部における自主的・主体的な学習活動を目指した授業実践の検討. 北海道教育大学紀要(教育臨床研究編), 73(1・2), 45-55.
- ・宮野希・白府士孝・細谷一博(2023)通常学級に在籍するひらがなの読み書きに困難を示す児童への指導の一事例. 北海道教育大学紀要(教育臨床研究編), 73(1・2), 85-93.
- ・松下裕幸・北村博幸(2023)児童期前期における実行機能の発達. 北海道教育大学紀要(教育臨床研究編), 73(1・2), 57-68.
- ・松下裕幸・北村博幸(2023)児童期前期における手続き的説明文の産出スキルの発達. 北海道教育大学紀要(教育臨床研究編), 73(1・2), 69-83.
- ・巻口恵理子・北村博幸・三上清和(2022) X B Aアプローチに基づくアセスメントの現状と課題. 北海道教育大学紀要 (教育科学編), 72(2), 89-102.
- ・松下裕幸・北村博幸(2022)文章算出と実行機能の関連. 北海道教育大学紀要 (教育科学編), 72(2), 57-72.
- ・伊藤公美子・北村博幸(2022) 幼児期の非認知能力の測定・評価に関わる研究. 北海道教育大学紀要 (教育科学編), 72(2), 73-88.

【書籍出版】

- ・脳の働きに障害を持つ人の理解と支援、片桐正敏（第 10 章発達障害や小児の高次脳機能障害を執筆）、誠信書房、2023 年
- ・国際地域研究IV，細谷一博・五十嵐靖夫・北村博幸，大学教育出版，2022，「特別な教育的ニーズのある子どもを対象とした学習支援活動」

#### 【学会発表】

- ・第 5 回日本 DCD 学会学術集会、2022/04/23～04/24、名古屋、片桐正敏、学校における発達性協調運動障害（DCD）の理解と支援
- ・13th Autism Europe International Congress、2022/10/07～10/09、ポーランド、Masatoshi Katagiri、Characteristics of developmental disorders and sensory in children with gifted.
- ・第 63 回日本児童青年精神医学会総会、2022/11/10～11/12、松本、限局性学習症の推論機能は測定可能か？-類推機能に関する基礎的研究-
- ・第 63 回日本児童青年精神医学会総会、2022/11/10～11/12、松本、蔦森英史、片桐正敏、萩原拓、発達性 Dyslexia と注意欠陥多動症の併存は適応行動に影響するか？-包括的アセスメントを用いた検討-
- ・日本特殊教育学会第 60 回大会，2022 年 9 月，つくば市，細谷一博・宮野希，協同学習を用いた交流活動の実施における効果－通常学級に在籍する典型発達児に焦点を当てて－
- ・日本特殊教育学会第 60 回大会，2022 年 9 月，つくば市，越智美雨・細谷一博，小学校を対象とした視覚障害理解教育の実践上の課題
- ・日本特殊教育学会第 60 回大会，2022 年 9 月，つくば市，宮野希・細谷一博，小学校知的障害特別支援学級児童を対象とした招待交流の効果における実践的研究
- ・北海道特別支援教育学会、2022 年 11 月 23 日、北海道教育大学釧路校、小野川文子・小淵隆司、シンポジウム「特別支援教育と不登校」にて調査経過等の報告。
- ・北海道特別支援教育学会、2022 年 11 月 23 日、北海道教育大学釧路校、田中雅子、シンポジウム「これからの特別支援教育コーディネーターを考える」にて報告。

#### 【その他】

--

## 6 実践的成果

### 【教材】

--

### 【評価方法】

--

### 【指導（授業）案】

--

### 【教育方法】

--

### 【その他】

- ・特別支援教育ファーストステッププログラム、2022/12/25、北海道教育庁留萌教育局（zoomによるオンライン実施）、20名参加
- ・特別支援教育ファーストステッププログラム、2023/1/20、北海道教育庁上川教育局（zoomによるオンライン実施）、25名参加
- ・特別支援教育ファーストステッププログラム、2023/1/20、北海道教育庁宗谷教育局（zoomによるオンライン実施）、23名参加
- ・特別支援教育ファーストステッププログラム、2023/1/25、北海道教育庁空知教育局（zoomによるオンライン実施）、31名参加

## 7 その他、研究実施状況

- ・令和4年5月30日（月）10:40～12:00 道教委・臨床的研究推進会議（道教委担当：学校教育局特別支援教育課主査 吉田先生）  
開催方法：zoomによる実施
- ・令和4年5月31日（火）18:00～19:00 道教委との打ち合わせ（道教委担当：沓澤先生，坂内先生）  
開催方法：zoomによる実施
- ・令和4年7月22日（金）18:00～19:30 道教委との打ち合わせ（道教委担当：沓澤先生，坂内先生）  
開催方法：zoomによる実施
- ・令和4年11月14日（月）13:30～14:30 第1回 臨床的研究推進チーム会議（参加者：安井先生、谷地元先生、片桐、奥田先生、半澤先生、佐山先生）

開催方法：zoom による実施

- ・令和5年2月14日(火) 16:00~17:00 道教委との打ち合わせ(道教委担当：沓澤先生, 坂内先生)

開催方法：zoom による実施

- ・研修会名称：西胆振地域における現職教員研修プログラム(発達障害児への理解と支援) 参加者数：54名

開催年月日：2022年8月10日

開催場所：だて歴史の杜カルチャーセンター

開催方法：対面式

- ・研修会名称：厚沢部町における現職教員研修プログラム(発達障害児への理解と支援) 参加者数：27名

開催年月日：2023年1月16日

開催場所：厚沢部町山村開発センター

開催方法：対面式

- ・名称：2022年度第16回北海道特別支援教育学会・釧路大会プレ企画  
「特別支援教育コーディネーターの極意って何？」セミナー

開催年月日：2022年7月29日

開催場所：北海道教育大学釧路校

開催方法：会場参集(対面形式)

参加者数：26名(釧路管内の特別支援教育コーディネーター等)

主な内容：釧路校教員(公認心理師/ホワイトボード・ミーティング®認定講師/認定ワークショップデザイナー)が講師になり、(特別支援教育コーディネーターに必要な極意を解説。主に「保護者との連携」で必要な観点をペアワーク等の演習形式で解説した。

アンケート結果：参加した特別支援教育コーディネーターからは、とても好評であった。保護者や自校の教員との連携で大切な「聴く」ことについて、ペアワーク等での体験を通して、参加者自ら気づくことができた。

- ・名称：2022年度特別支援教育青年期フォーラム

開催年月日：2022年8月3日

開催場所：北海道教育大学釧路校

開催方法：会場参集(対面形式)及びオンラインの併用

参加者数：45名(釧路管内の高校教員、保健師等)

主な内容：釧路校教員がコーディネーターとなり、管内高校における特別支援教育の現状について話題提供・意見交換を行った。特に、コロナ禍における対応の難しさを踏まえ、各学校における事例の紹介・検討を行った。

アンケート結果：特に事例の紹介・検討がよかったという感想が多かった。また、開催方法(参集か、オンラインか)を模索しつつ、今後も継続して欲しいという要望が多かった。

・名称：特別支援教育ファーストステッププログラム

開催年月日：2022年12月20日、2023年1月13日、2023年1月30日

開催場所：北海道教育庁十勝教育局、北海道教育庁オホーツク教育局、北海道教育庁釧路教育局、北海道教育庁根室教育局（zoomによるオンライン実施）

参加者数：10名～40名